

令和元年 9月 市長定例記者会見

2019年 9月 2日(月)

午前11時00分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから9月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表の終了後お願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数ではございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問が終わりましたらお切りいただきますようよろしくお願いいたします。

終了は12時、正午を予定しておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 9月の定例記者会見です。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はちょっと早い時間ですので、よろしくお願いいたします。

まず、九州の北部で大雨が降りまして、本当にたくさんの方が被害に遭われました。心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興、復旧を願っております。

さて、敦賀市のお祭りが1日、昨日から始まっております。秋の風物詩でございますので、ぜひたくさんの方にお楽しみいただきたいというふうに思っております。今日は宵山巡行、お祭り広場ということですし、明日は御鳳輦の巡幸、神輿渡御、4日の日が山車の巡行と民謡踊りの夕べということになります。去年は台風で山車の巡行はできませんでしたので、今年はぜひともやっていきたいというふうに考えております。

また、今年が開港120周年ですので、それぞれのイベントの中で開港120周年ということも打ち出しながら進めさせていただいているところでございます。

それから、6日の日から9月議会を開催することになります。補正予算や一般議案、それからまた今年度から決算ということもこの9月議会でご審議いただくこととなりますので、十分にご審議いただきたいというふうに思っております。

また、8月30日、31日ですけれども、県の原子力総合防災訓練が開催されました。本市もたくさんの方の市民の皆さんにご協力いただきまして、することができました。この避難訓練を糧にしまして、またよりよい訓練、また避難ができますように備えていきたいというふうに考えております。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 それでは、本日の事業発表項目は2つございます。

1つ目は、令和元年度9月補正予算概要についてでございますけれども、今回の補正予算につきましては、国県補助金の内示決定に伴うものなど、6月補正予算以降に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、市庁舎整備につきましては、自立型水素エネルギー供給システムを導入するための詳細設計委託料を計上するとともに、工事に係る継続費を設定いたしました。また、本年10月の消費税率引き上げに伴う消費平準化対策として、国が令和2年度にマイナンバー

カードを活用した自治体ポイントによる消費活性化策の実施を予定していることから、当該事業の準備業務に必要な経費を計上いたしました。

その他、補正予算の主な事業として、民生費では、社会福祉法人が行う障害福祉サービス事業所の整備に対する補助金を計上いたしました。

農林水産業費では、中山間地域を対象に、集落住民が棚田地域を保全する目的で行う共同作業に対して、必要となる資機材購入のための助成金を計上いたしました。

土木費では、岡山松陵線等の開通式典のための経費負担金を、教育費では、図書館に飲食スペースを開設するための経費を計上いたしました。

特別会計では、介護保険特別会計において、介護給付費国庫負担金等の精算返還金を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

それから、2つ目の秋の交通安全大会の開催についてでございますけれども、交通安全意識の高揚と交通マナーの向上に努め交通事故防止を図るため、秋の交通安全県民運動期間に合わせ、9月25日水曜日午後1時半からプラザ萬象において、秋の交通安全市民大会を開催いたします。

敦賀市交通対策協議会加入の各団体などから約700名が参加し、交通安全功労者等の表彰を初め、交通安全標語コンクール及びポスターコンクール優秀作品の表彰、また会員による大会宣言を行うなどして交通事故の防止を図っていきたくと考えております。

詳細は別紙資料をごらんいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。最初に幹事社さんから、よろしく願いいたします。

【記者】 まず、事業予算の中でムゼウムの指定管理の予算が計上されているんですけれども、これはある程度指定管理者の方向でという流れになっていて、ここまで来た中で、市長として、どういうふうなムゼウムの施設になってほしいとか、何か希望というか、そこら辺の思いはありますか。

【市長】 ムゼウム、審査会のほうで指定管理者が好ましいということを伺いまして、そういう方向で検討を進めているところでございます。

議会のほうで認めていただければ指定管理者にしていきたいと思っておりますが、敦賀市の今のムゼウムですと、バスが来たときに、皆さん乗っている方が一遍に見ていただくことができないので、もう少しスペースを広げて、観光バス2台ぐらいで来たときでも対応できるような施設になればいいなというふうに思っております。そうすることで、団体のお客さんもそうですけれども、修学旅行などそういう人たちが来ていただいて敦賀の歴史などに触れていただけたら非常にありがたいというふうに考えております。

また、もう一つは、市民のシティプライドといいますか、ふるさとに対する誇りというのを醸成するような場所となりますように、自分たちの先祖とか歴史がどういうものかというのをもう一回再確認していただくような場所になったらいいなというふうに考えています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いをさせていただきます。発表項目につきまして質問がございましたら挙手をよろしく願いいたします。——よろしいですか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進みたいと思います。こちらも幹事社様から、ありましたらどうぞよろしくお願いたします。——よろしいですか。

それでは、各社お伺いをさせていただきます。

【記者】 予算と絡む話なので、どっちで聞けばよかったのかなと思いますが、9月補正予算案でリラ・ポートに対する予算をつけていないという状況ですが、6月補正予算で撤回した2000万強の事業の取り扱いと、今回、9月に計上しなかった理由についてお伺いしたいです。

【市長】 6月に補正予算を出しましたけれども、指定管理者のほうでそれは強く否定されたところでございますので、9月では補正予算は計上しておりません。

【副市長】 協議は続けておりますが、私どもとしては、本業である温泉業のほうでできるだけ収益を改善してほしいなということで考えておりますが、指定管理者のほうでは、健康増進のマシンといいますか、そういったものを引き続き要望されているということで、ちょっとまだ考えの一致を見ていないと。それで、今後も協議は続けていきたいというふうに考えておりますが、9月補正を今回計上していないということについては、指定管理者に担当部長、また私からも直接お伝えいたしました。

【記者】 あとは、産経建設常任委員会で集中議論されて、委員の方々の意見としては、理事者側が第三者機関をもって引き継ぎ時の問題点とかを洗い出してほしいというような意見が結構多かったんですが、その第三者機関の設置についてはどうお考えでしょうか。

【副市長】 現時点で未定でございますが、既に議会でいろいろと調査していただいておりますし、私どもは私どもで、市で内部調査、確認等を行っております。それで、これから第三者委員会を設置して、これ以上調査ができるのかなということについては不明といえますか疑問な部分を思っております。現在検討中ではありますけれども、なかなか第三者委員会を設けても難しい面はあるかなというふうには思っております。

【記者】 多分、前回、産経建設常任委員会のほうで指定管理の浜名湖側も参考人で呼んで両方の意見を聞いて、食い違う部分というところが出てきまして、そこをどう埋めていくかという部分には第三者の視点も必要かなと思ったんですが、そこらはどうですか。

【市長】 委員会の所管事務調査のほうが強権を持っていますので、所管事務調査で明らかにならなかったところを第三者委員会にというのはちょっと逆行するのかなという感じがありますので、なかなか検討する中でもその辺のことは難しいのかなというふうに考えています。

【記者】 原子力の関係で、一つお伺いします。

先日、文科省のほうから、もんじゅなりふげんりの廃炉に関する、地域振興も含めてですけれども、予算の提示があって、概算要求の説明がありまして、その中で地域振興の話というのが出ていました。国のほうはああいうふうな予算の説明がありましたけれども、その中で、県のほうの計画ですよ、エネルギー・コースト計画というお話がちらちら出ていましたけれども、現時点ではっきり何かというわけでもないのでしょうか、今時点で敦賀市として、その県の計画なりに今後期待されることなり、どういうことを求めているのか、もしくは、もうまとまってきているのかもしれませんが、どういうふうに、使っていきたいというのは語弊がありますが、生かしていきたいというふうに、どういふようなことをお考えなのか教えていただけますか。

【市長】 ちょっと後で補足してもらえればと思いますけれども、副市長のほうがその辺はお詳しいと思いますが。

エネルギー・コースト計画、嶺南地域全体で見ていこうということを県のほうでお示ししていただいて、ありがたいなというふうには思っております。その中で、こうやって廃炉とかとまっているという状況を考えますと、やっぱり立地地域が一番苦しいんだろということとは当然わかりだと思しますので、嶺南を一つにくくって応援しようというんじゃなくて、それぞれの事情に応じた強弱をつけていただきたいというふうに考えています。

【副市長】 いわゆる廃炉ビジネスとかそういったものにつきまして、地元のためになるような見通しと申しますか、市内企業の参入とかそういったものが可能なような事業とか計画をつくっていただきたいということと、また、人材育成にいたしましても、試験炉の話もございますし、それから、何か国の概算では原子力ライブラリというのも上がっているようでございますが、できるだけ敦賀を拠点にということと、最終的には敦賀の地域振興に結びつく、あるいは経済の活性化に結びつくような計画にしていきたいということと、いろいろと言っておりますし、また、エネルギー・コースト計画では水素にも取り組むということを検討されておりますので、その方面でも、敦賀市、水素産業ということで取り組んでおりますので、実のあるもの、実のある計画にしていきたいなというふうに考えております。

【記者】 ちょっと補足で。今、市長、それぞれの事情に応じた強弱というふうにおっしゃったので、ちょっと追加で教えてください。その事情というのは、それは原子力発電所の状況というか、そういうことなんでしょうか。つまり、もっと南の自治体だと実際に動いているところがありますけれども、敦賀の場合は、2号機は別にして、ほぼ廃炉のほうに進んできています。そういう意味で言うと、そういう段階というか、そういうものに応じたという意味でおっしゃっているんですか。

【市長】 はい。そういった意味です。ですから、再稼働に向けて準備しているところはそれで活性化しているでしょうし、廃炉のところは人が減っていくわけですから、そのための働く場所というのが必要になってきますので、そういう廃炉も含めて考えていただきたいということです。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 現在、中池見の協議会のほうで、12月議会に上程を予定している中池見湿地の施設の設管条例について意見を出して話し合っているところなんですけど、その中で問題になっているのが基金ですね。中池見にお金を出している基金が、当初の予定ではあと4年後、今はもうちょっと延びるかなというところなんですけど、そこが切れるということで、現在その問題でかなり市側といいますか事務局の意見と委員さんの意見で食い違いが見られている状態なんですけど、市長のお考えとして中池見湿地を今後どうしていきたいか、そのお考えをまず伺えたらなと思うんですけども。

【市長】 中池見湿地については、ラムサール条約に指定されていますので、敦賀市の貴重な財産として保全していきたいという気持ちはあります。その中で中池見湿地保全活用計画というのが策定されていますので、それをきちんと実行していくというためにどうしていったらいいかということと協議していただきたいというふうに考えています。

【記者】 同じことでもう1点伺いたいですけれども、活用計画の中では、協議会を自

立した組織にして運営をしていくというのが一つ目標として挙げられていて、もう1点は、今後なくなっていく基金に対しても話し合っ、資金獲得策を話し合っ得ていこうという話もあるんですが、現状、その基金があと四、五年でついで、もしその協議会が自立した組織になっていなかった場合、市としてはどのような対応をとられるんですか。

【市長】 たらればの質問になるので答えにくいんですけども、そういうふうにならないように努力をしていただいておりますので。収入を得るために、条例化というのもそういう目的の一つがありますので、収入を得ていただきながら自立した活動を続けていただくというのが本来の姿だと、本来の目的だと思います。

ふるさと納税の中でも応援ということで資金の募集をしておりますけれども、そういう大きなお金にはなかなかありませんので、枯渇しないようにいかに検討していくかということを議論していただいているということだと思います。

【市民生活部長】 中池見の活用基金は枯渇に向かってきておりますけれども、中池見湿地保全活用計画は、基金を切り崩す形では保全活用が継続できなくなる状況をあらかじめ踏まえて策定しておりますので、将来的には財源において行政からは独立した民間主体の保全活用を想定してつくっています。この計画や条例制定により基金をできる限り延命して、基金調達のできる仕組みづくり、体制づくりを行う考えでございます。

市としては、条例に定める施設管理や計画の役割分担により、必要なものについては費用対効果も含めて今後検討してまいりたいと考えているところでございます。

【記者】 繰り返しになるんですけども、気になっているのが、活用計画、かなり内容の充実したもので、ほかの部分も中池見湿地の活用策も多く含んでいるんですけども、その最終的に自立した組織運営が、基金が枯渇した際に実現せよ、そのために実現せよとは書いていないと思うんですよね。今は、枯渇しないようになるべく基金を延命して、自立した組織になっていきましょう、目指しましょうということなんですけれども、現状その部分が委員さんの中でもかなり考えが分かれていますし、そもそもそこが心配なので、現状、ある程度、設管条例で幾ら市が、市として管理するための条例なんですというふうにご説明しても、余り議論がうまくいっていない状態なんです。

ですので、たらればの話と言えはそうなんですけれども、必要なものに対しては、今後も市が財産とおっしゃるのであれば、ある程度の財政の出すものがないと余り、ちょっとご説明ではなかなかわからないというのが正直なところなんです。済みません、改めてちょっと伺えれば。

【市長】 そうですね。今議論されている中では、中池見湿地のラムサール条約なんかの保全ということとビジターセンターの運営ということと混同されている部分があると思うんです。ですから、湿地を目的どおり保全することに対しての必要な経費、それとビジターセンターを運営するための経費というのは分けて考えたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。そうすることで、ある程度の筋道は見えてくるんじゃないかなというふうに考えていますけれども、それはこちらの保全活用協議会のほうで議論されていますので、その中で議論が進んでいくものというふうに期待しています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 関連して。

中池見の協議会、僕も見せていただいて、なかなか時間がかかるなという感じで。かか

ってもいいんですけども、きっちり議論しないといけない問題だなと思って傍聴させてもらいましたが。

今、湿地を保全する経費とビジターセンターを運営する経費がごちゃごちゃになっていてというお話だったと思うんです。議論を聞いていても、今のお話でもわかりにくいなと思うのは、市としては、ではどちらを、どっちかだけということではないんでしょうけれども、どの部分というのを責任を持ってこれから担っていくという話を今のところ思い描いていらっしゃるのかという部分が、やっぱり委員さんの側でも協議会の方にしても不明確な部分なんです。確かにそれは議論してもらって決めてもらうということなんでしょうけれども、市のスタンスというのがもうちょっと見えにくいなというふうに何度か傍聴させていただいても思ったので、今ちょうど、ごちゃごちゃになっているんだというお話が出ましたので、要するに、現時点でいうと、市側としてはどの部分を市の責任というふうにお考えになっていて、どういう責任をこれから果たしていこうというふうに考えているのかというあたりは、どういうふうにお考えなのでしょう。

【市長】 ちょっと私、詳しい資料を持ちませんが、保全活用計画の中で市の担うべき役割というところは丸印がついて分類されておりますので、その部分が市が担当する部分だと思っています。

資金について、敦賀市が一般会計を割いて出していく性質のものではないというふうに考えています。中池見湿地の保全というところでどうなのかというお話がありますけれども、あそこは一坪地主さんがたくさんいらっしゃるんです。ですから、その部分は個人地ですので、保全していく上で非常にづらい部分がありますよね。ですから、その辺もまとめていただくと非常にありがたいなということは思っております。

【記者】 そうすると、一般会計については、割いて出していくという性質のものではないというふうにおっしゃいました。

地主のお話がありましたけれども、もともとそういう一坪地主さんみたくのをまとめていくという、そうすると、現状どういう形になると、市側としては、より実効性のある保全なり、今規定されている役割、そういうものを果たさせていけるというふうにお考えなんでしょうか。

【市長】 活用協議会の中で議論していただければいいと思いますけれども、一番つらいなと思っていますのは、今言いましたように個人の土地があるというところで、そうすると植生なんかを統一してもとに戻そうとしても、そこまでは手が入らないんじゃないかと。そうすると、中池見を保全しようと思って一坪地主さんたちは協力していただいたんじゃないかと思いますが、そういう活動の中で本来の目的にそぐわない部分があるのかなと。ですから、それはそういう運動を展開した方たちがいらっしゃいますから、その方たちが解消していただきたいというのは願っているところです。

【記者】 あともう一つ、念のため確認させてください。

今、過剰に一般会計を出してくれという話をするつもりはないんですけども、一般会計を出していく性質ではないというふうに判断される根拠の部分、それをもうちょっと丁寧に説明していただけますか。

【市長】 特に、私の考え方だけです。根拠はありません。

ただ、基金があったんですね。基金をずっと取り崩してきて活動しておりますので、い

ずれゼロになることは当然わかってやっていることです。ですから、それがゼロになる前に何とかしなくてはいけないねというところで、時間をかけて保全活用計画というのをつくっていただきましたし、役割分担もしていただいたんですね。でしたらそのとおりにやりましょうというのが基本的な流れじゃないかなと。ですから、そのとおりにやって、それからの話だと思います。

【記者】 ごめんなさい、何回も。もう一つだけ。

仮に、今はたられればの話でというお話だったのですが、一般会計のお金を出していく性質ではないというふうにご判断されたとしても、ラムサール条約で規定されている湿地が残りまして、市の財産として、所有云々というよりは敦賀市の、さっきおっしゃったまちのブランドとしての財産としては残り続けるわけですけれども、それに関する責任というのは計画にも当然書いてありますが、その部分というのはきちっと果たしていくというお考えは変わらないのでしょうか。

【市長】 ですから、中池見湿地保全活用協議会の中で議論していただきますけれども、その中でうまくいかなかった場合ということになりますので、新たな仕組みづくりから始めていかないと、なかなかそれを守っていくことはできないんじゃないかなというふうにご考えています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 先日、県の原子力防災訓練があったかと思うんですけれども、それについてちょっとお伺いしたいんですが。

最終日に知事が、外国籍の方が増えていると。そういった避難方法の検討を始めなければいけないとおっしゃっていたかと思うんですが。

質問したいのが2つで、一つが、敦賀市さんは多分1000人程度、外国籍の方がいらっしゃったと思うんですけれども、まずその人数と、その増減、増えているのか減っているのか。どういう国籍の方が増えているのかとか、いらっしゃれば傾向を教えてくださいたいのと、その方々に対する避難方法の周知というのは、敦賀市として独自に何かやっていくものがこれからあるとすれば、教えていただきたいです。

【市長】 人数は、多分、誰かが調べてくると思いますけれども。

外国人で働いていらっしゃる方に対する避難というのは、小中学校とか高校とかと一緒にだと思いますけれども、要は、事業者さんのほうに周知する必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

もう一つは、敦賀まつりなんかでもたくさんの外国人の方が見えていますので、外国人の観光客の方たちにも周知しないといけないでしょうから、その辺は少し言語の、英語で出すとかそういうことは考えないといけないと思いますが、基本的には駅などの、皆さんが、ホテルとか立ち寄る場所で周知するような手続をとらなくてはならないんだろうなということをごの間感じたところです。

【市民生活部長】 人数については、後ほど危機管理対策課のほうから回答させていただきますので、よろしく願いいたします。

【記者】 先ほどありましたリラ・ポートの関係なんですけれども、議会の調査がずっと入っておりまして、この関係で事業者との意見がずっと平行線をたどっている形かと思うんですが、なかなか話し合いが食い違くと。このあたりで、信頼関係について今後どのよ

うに構築していかれるか、このあたり、ちょっとお聞かせいただいでよろしいでしょうか。

【市長】 議会の委員会の中で意見や認識の食い違いというのがあったかというふうに聞いておりますけれども、市のほうでお答えしている中というのは、当然担当者もかわったりしますので、それぞれの記録に基づいてしゃべっている部分ですので、余り事実から揺るがないというふうには考えています。その中で大きな食い違いというのがあるということ自体が私たちは非常に驚きですし、事業者さんはどういうふうに考えていらっしゃる、もしくはそのときの記録というのがどうなっているのかなというのはちょっと疑問に思っているところですが、全体的な話は副市長のほうからお答えしていただければ。

【副市長】 今後も引き続き協議を続けていきたいと考えておりますので、その中で意見の食い違い、解決できるものは解決していきたいと思っています。

いずれにいたしましても、リラ・ポートを継続して、営業と申しますか、続けていくことが一番大事だと考えておりますので、そうした観点で事業者とまた協議を続けていきたいと考えております。

【記者】 その協議のあり方なんですけれども、それは個別に直接事業者と話し合いを続けていくと、そういうようなお考えでよろしいでしょうか。

【副市長】 今のところはその考えですし、必要に応じて私も協議したいと思っています。

【記者】 リラ・ポートで関連なんですけど、今後も協議を続けていってという話で、現状、余り経営状況がうまくいっていないというのが根本にあって、市としては、協議を続けて相手方と合意した場合、どういう支援策になっていくのかというのを改めてお伺いしたいです。

【副市長】 先ほども申し上げましたが、リラ・ポートの設置目的、温泉を活用してということでございますけれども、そういったことを中心に支援をしていけないかということ考えているということでございます。

今年1月来、いろいろと協議はしてきておりますが、新たな事業展開をしたいというふうに考えていらっしゃるがございます。私どもとしては、その前に本来の業務で少しでも集客を増やしてほしい、収支改善してほしいというところがございますし、指定管理、お任せするに当たりまして協定書を結んでおりますし、事業計画なんかも出てきております。そういったものに基づいて頑張っていただきたいと申しますか、そういったことで協議を続けていきたいと考えております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、これもちまして9月の市長定例記者会見を終わります。

どうもありがとうございました。

午前11時35分 終了